

令和元年度 横浜市世界を目指す若者応援事業

(個人留学による帰国報告)

●氏名

Ts.Tさん

●留学先

国/都市：アメリカ合衆国/オクラホマシティ（オクラホマ州）

外国の高校：Southeast High School

●留学期間

2019年9月26日～2020年4月6日

●留学先での活動、留学で学んだこと

私は、昨年9月から、アメリカのオクラホマ州へ交換留学をした。交換留学では、アメリカの学校に一生徒として留学し、アメリカの一市民として生活する。私は、アメリカについて深く知り、一日本人として現地で日本のことを知ってもらえるように努めた。

アメリカ留学では、色々な言語の機会を得た。オクラホマ州では、日本語話者がほぼいない為、基本的には英語で自分の意思を伝えなければならない。そもそも、アジア系の滞在者が少なく、私がオクラホマ州で日本語話者と接したのは、6ヶ月超の期間の中で日本語学習者を含め、たった2回である。このような環境が、英語力の向上を導いたと言っても過言ではない。

オクラホマ州は、アメリカの中部に位置しており、ラテン系アメリカ人が多い。従って、英語のみならず、スペイン語話者が多い。学校や教会など色々な場所でスペイン語が話され、スペイン語に触れる機会が多かった。私のホストファミリーはラテン系の家族で、スペイン語を話していた。だから私は、英語の他にスペイン語にも興味を抱いた。

一言にアメリカと言っても、ヨーロッパ系、アフリカ系、ラテン系、先住民など多種多様な人種が共に暮らしているのがアメリカであり、それぞれのアイデンティティを互いに尊重しあっている。日本とは異なる生活、食文化、考え方、宗教などをホームステイを通じて体験が出来たのは、私の人生において大いなる学びになった。このことは旅行や語学留学などでは体験出来なく、交換留学生として留学したことによって、学べたことであり、大変貴重である。

アメリカの学校では、生徒自らが学びたい科目を選べ、自主的かつ主体的に学習

できる環境が整っている。放課後に野球やフットボールなどの試合が行われ、多くの生徒や保護者が応援する。また、友人とバスケットボールなどのスポーツで過ごす生徒もいる。

オクラホマ州には日本人がほとんどいなく、基本的に英語で生活していかなければならない。交換留学は、完全に異なる文化でホストファミリーと共に暮らすので、「カルチャーショック」や「ホームシック」になる人が多い。しかし、私は言葉の障害などの苦難を、ホストファミリーや友人の手助けで、乗り越えることができた。

交換留学をしたことで、オクラホマ州、さらにアメリカの文化についても深く触れることができた。選挙、政治、移民、宗教などのアメリカの深い事情には、ホームステイをすることでしか知ることが出来なかったと思う。

私は、アメリカで学んだだけではなく、日本の良さについて、学校の友達やホストファミリーに紹介した。オクラホマ州と日本は関係が薄く、日本人がオクラホマ州についてほとんど知らないのと同様、オクラホマ州では日本のことについて良く知られていない。オクラホマ州には交通の手段があまりなく、現地に知り合いがいないと日本人が観光することは困難である。また、オクラホマ州に住む人々は、主にテキサス州などアメリカ国土内にしか行かないため、日本のことを知る機会が少ない。

オクラホマ州では、アニメや寿司、ラーメンなど部分的ではあるが、日本の文化が知られている。私はホストファミリーにカレーやお好み焼きなどの日本食を振る舞った。そして、私が持参したジブリ作品などの代表的なアニメ映画と一緒に見た。また、学校では、日本の文化と横浜を紹介するためのプレゼンテーションをした。その際、日本について興味を持ってもらえた。特に、横浜の「みなとみらい」や「中華街」については「行ってみたい」と言われ、嬉しく思った。

私は、この貴重な留学体験を終えて、引き続き英語やスペイン語などの勉強を続けていく。そして、東京オリンピックなどの国際大会にて、日本語で会話することが出来ない観光客を見かけたら、積極的に話しかけ、自分のできる範囲で手助けしていきたいと思う。

留学をするにあたり、ホストファミリーや日本で支えてくれた人達、そして横浜市世界を目指す若者応援事業にご支援していただき大変感謝している。